

WEEKLY SIGNAL

2019年7月19日(金) 1483号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	7/22(月)	7/23(火)	7/24(水)	7/25(木)	7/26(金)
無担保O/N			△0.086% ~ 0.001%		
銀行券	+ 600	トシ	トシ	△ 1,000	△ 1,000
財政他	△ 100	+ 1,000	△ 2,000	+ 7,000	+ 3,000
資金需給	+ 500	+ 1,000	△ 2,000	+ 6,000	+ 2,000
主な要因	国債償還(変動15年) 国庫短期証券発行・償還(3M・1Y)		国債発行(40年)		
オペ期日	共通担保 CP等買入	△ 2,600 △ 600			
オペスタート	共通担保 ETF買入	+ 2,400 + 100			
(日本)	コンビニエンスストア売上高(6月)	日銀営業毎旬報告(7月20日現在) 全国百貨店売上高(6月) 月例経済報告		企業向けサービス価格指数(6月) 対外・対内証券投資(7月14-20日)	消費者物価指数(東京都区部、7月)
(海外)		米 FHFA住宅価格指数(5月) 米 中古住宅販売件数(6月) 欧 ユーロ圏消費者信頼感指数(7月)	米 新築住宅販売件数(6月) 欧 ユーロ圏マネーサプライ(6月) 欧 ユーロ圏総合・製造業・サービス業PMI(7月)	米 卸売在庫(6月) 米 耐久財受注(6月) 米 新規失業保険申請件数 (20日終了週) 欧 ECB、政策金利発表・記者会見	米 GDP(2Q、速報値)

【インターバンク市場】

<インターバンク>

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.060 ~ 0.020
SPOT 2M	△0.030 ~ 0.020
SPOT 3M	△0.030 ~ 0.030
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.100

日銀当座預金残高は、週初402兆2,700億円から始まった。その後は概ね横ばい圏で推移し、402兆4,700億円を越えた。新積み期に入った無担保コールON物は、大手行が調達量を増加させたため、堅調な地合いとなり、週初と同加重平均金利は△0.072%に上昇した。その後も大手行を中心とした底堅い調達意欲が継続したため、出合の水準は上昇基調を辿り、週末19日は△0.064%まで上昇した。1W~2W物の出合の中心は週初△0.060%~△0.050%であったが、ON金利の上昇に伴い、ターム物の出合水準も上昇し、週末にかけては△0.045%~△0.040%の出合が見られた。来週の主な予定は、国内では月例経済報告の公表(23日)、海外ではECBの政策金利発表・ドラギ総裁記者会見(25日)、米GDPの公表(2Q、速報値)(26日)などがある。

【オープン市場】

<C P>

CP3M(a-1+)	△0.005 ~ 0.000
TDB 3M	△0.180 ~ △0.120
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

今週の入札発行総額は約6,400億円で、週間償還額(6,000億円)に対し若干増加した。発行市場は、鉄鋼・石油等複数の業態から連日まとまった金額の発行があり、活況となった。また、9月末までの期中物が発行額の7割弱を占め、一般事業法人が中間期末を意識する動きとなっている。先週末の市場残高(21兆660億円)に対し、18日時点では21兆1,000億円強となった模様。発行レートは、引き続きマイナスから0%近辺での横ばい圏内の出合いであった。来週の償還総額(7/22~7/26)は、3,000億円程度となっている。5・10日発行や月末日の前倒しスタート案件も見込まれ、先週に引き続き活況が予想される。発行レートは、投資家は0%以上であれば運用ニーズが強く、引き続きマイナスから0%近辺での出合いとなろう。CP等買い入れオペが、26日に2,000億円程度オファーされる予定である。

<TDB>

18日入札の1Y845回債は、年末越えの担保としての活用や米国の利下げ後の環境への備え等から需要が高く、最高落札レート△0.1931%(前回債△0.1851%)、平均落札レート△0.1971%(同△0.2068%)となった。一方で19日入札の3M846回債は、最高落札レート△0.1303%(前回債△0.1363%)、平均落札レート△0.1407%(同△0.1463%)と前回債とほぼ横ばいであった。セカンダリー市場では3M物△0.14%程度、6M物は△0.23%~△0.21%程度、1Y物△0.20%程度で出合いが見られた。来週は26日3M物の入札が予定されている。

<レポ>

足許GC取引は週初△0.09%~△0.095%で始まり、週後半にかけて△0.09%~△0.10%で推移した。短国1Y、3Mの発行が重なった22日受け渡しでは△0.08%台まで上昇した。SC取引では5年139回債のbidが多く、週を通して概ね△0.10%台前半。10年353回債は週初△0.10%台半ば~△0.20%近辺の出合いが一時的に見られた。他2年400・401・402回債、5年137・138・140回債、10年338・339・340・341・342・343・344・345・346・347・348・349・350・351・352・354・355回債、20年164・165・166・167・168回債、30年59・60・61・62・63回債、40年9・10・11・12回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更される可能性があります。